

A-05

生成AIが描く未来の脳 ～行動を変えて健康な未来へ～

着目した世の中の課題

2025年には高齢者の5人に1人が認知症状態であると推計されており、認知症の人および家族などがあんしんして生活できる共生社会の実現は大きな社会課題です。脳の健康を保つためには、適切な生活習慣を送ることに加えて、脳ドックの受診といった意識的な行動が大切です。

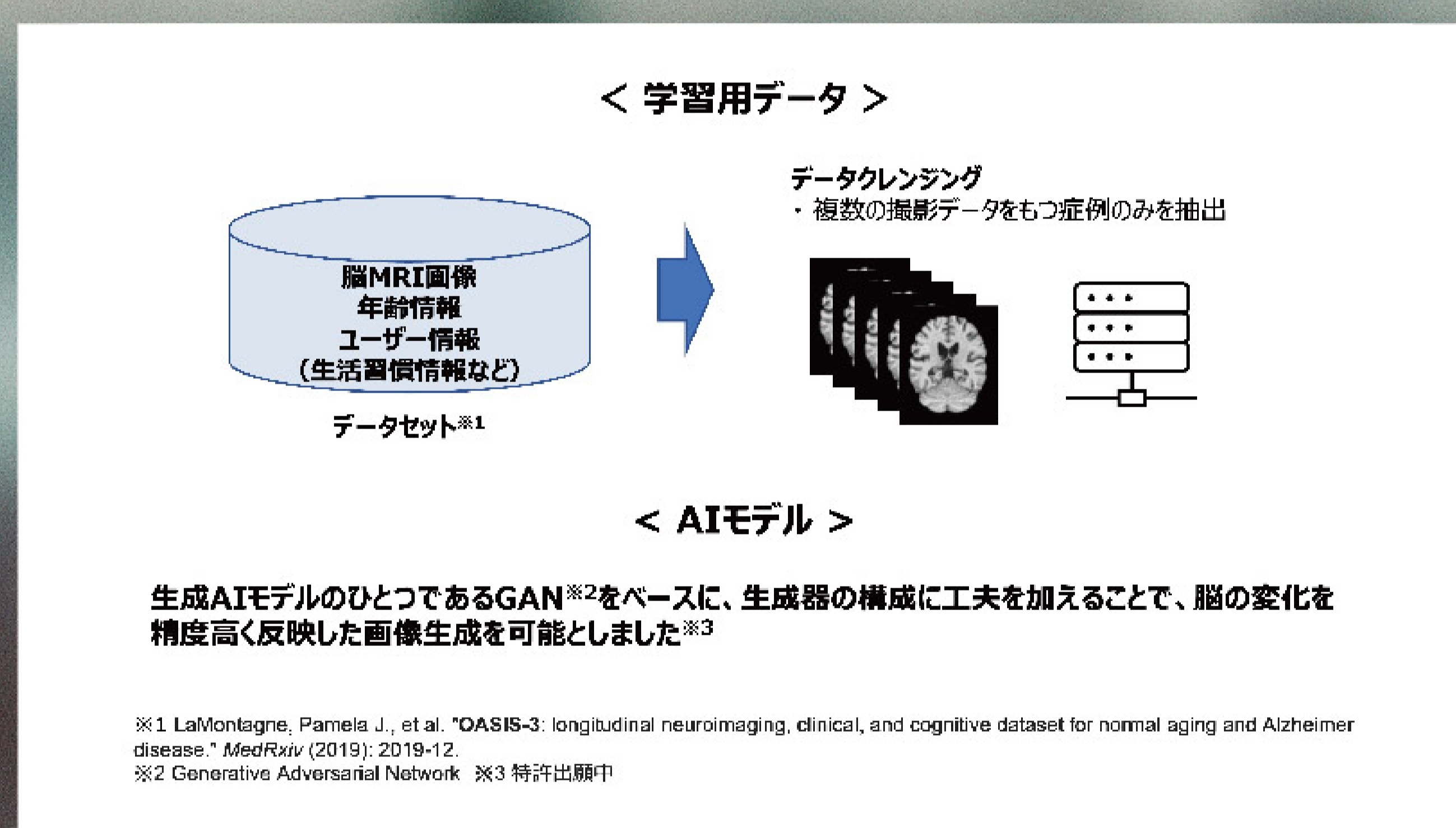
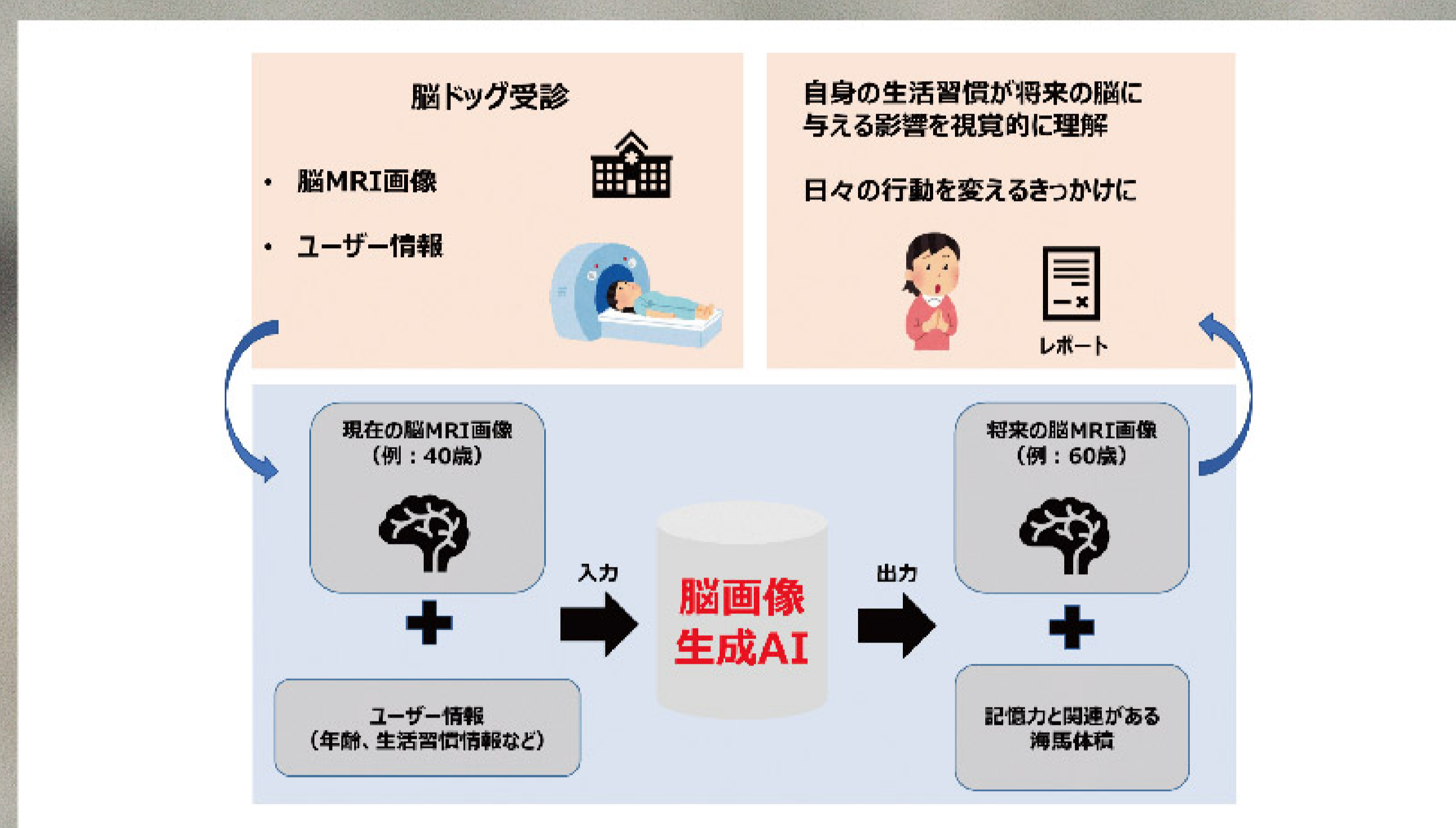
解決となる取組み

概要

脳画像や年齢、生活習慣情報などから将来の脳画像を生成することで、加齢や生活習慣による脳の萎縮や認知症に関連するといわれる海馬の体積変化の視覚的な理解を可能にする技術開発に取り組んでいます。認知症リスクを認識してもらうことで生活習慣改善となる行動変容を促します。

取組みを支える技術

脳画像と年齢・生活習慣情報などのユーザー情報をもとに、生成AIモデルの一つであるGAN(敵対的生成ネットワーク)をベースとしたAIモデルの構築に取り組んでいます。AIモデルの構成に工夫を加えることで、加齢に伴う脳の変化を反映した画像生成を可能としました。



共創
パートナー

株式会社Biomy / YUAD®

SDGs

3

すべての人に
健康と福祉を



9

産業と技術革新の
基盤をつくらう



生活習慣による脳の変化を視覚的に理解することにより、
生活習慣を改善し、脳の健康を保つための
行動変容を促進します。これにより、
健康寿命の延伸や医療介護費の削減に貢献します。

将来的には身体全体の未来を可視化することにより、健康の維持・改善を支援します。